

2022 年 3 月 4 日

各 位

SBS 東芝ロジスティクス株式会社

2021 日本 I E 協会年次大会の分科会にて 大分ロジセンターの I E 活用事例を発表しました

SBS 東芝ロジスティクス株式会社（社長：佐藤広明、本社：東京都新宿区）は、3 月 2 日、日本インダストリアル・エンジニアリング協会（以下、日本 I E 協会）が主催する「2021 日本 I E 協会年次大会」（於：タワーホール船堀（東京都江東区））において、物流現場改善における I E の取組みをテーマに大分ロジセンターの改善事例を発表したことをお知らせします。



本大会は、「IEが奏でる未来響創～ニューノーマル時代のパラダイムシフトを支えるIE～」を今年度のテーマとし開催されました。1. 常に市場の変化に適応していくための「企業戦略」、2. “人” にフォーカスした「人財力」、3. 自律的な改善にフォーカスした「現場力」、4. 業界などの境界を超えシームレスに活用される「広がる I E」の 4 つの分科会から構成されています。

このたび当社が事例をご紹介したのは、第 4 分科会の「広がる I E ～業種を超えた I E 活用～」です。製造業（モノづくり）生まれの I E を、他業種でより広く展開させることを目指していた日本 I E 協会様が、2021 年 5 月に開催された「全日本物流改善事例大会 2021」において物流合理化努力賞を受賞した当社の発表をご覧になり、製造現場以外で I E を活用している事例としてお声掛けをいただきました。発表の概要は以下のとおりです。

IE手法を駆使したピッキング工程のバラツキ改善 ～作業手順書で表現しきれない「動作」の統制～

- 課題背景：庫内作業者の高齢化による減少傾向に伴い、ピッキング作業を専任ではなく他工程からの応援で対応する機会が増加しており、作業の生産性向上が喫緊の課題であった。
- 解決策：応援者の作業動作を確認したところ、特に経験の浅い作業者にムダな動作が多いことが判明。作業手順書では表現できない動作を“秒”（IE 手法）の目で切り込み、分析を行いピッキングに関わる動作を改善。作業動作の統一を図るとともに動作時間の削減を実現。

当日は、会場およびオンラインで約 580 名の皆様へ、上記改善取り組み内容から、将来に向けた A I、ロボット技術の活用への取り組みまでをご紹介しました。SBS 東芝ロジスティクスは今後も I E 手法を活用したロジスティクス現場の生産性向上に積極的に取り組んでまいります。



右：社長の佐藤広明
中央：発表者の吉永富士男
（大分ロジセンター長）
左：常務の櫻井俊

以 上

■ご参考

＜SBS 東芝ロジスティクス株式会社 概要＞（2021 年 3 月期）

本社住所：東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー25 階

代 表 者：代表取締役社長 佐藤 広明

設 立：1974 年 10 月 1 日

親 会 社：SBS ホールディングス株式会社（持株比率 66.6%）

資 本 金：21 億 28 百万円

売 上 高：902 億 49 百万円（単独）

従業員数：722 名

関連会社：TL ロジサービス(株)

事業内容：倉庫業、貨物利用運送事業、機械器具設置工事業、とび・土工工事業、通関業
航空運送代理店業、物流コンサルティング

U R L：<https://www.sbs-toshibalogistics.co.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

SBS 東芝ロジスティクス株式会社 総務部

TEL：03-6772-8201（代表）／URL：<https://www.webcoms.jp/sbstlog/contact/>

※ 当資料に掲載されている情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。